

第 2 6 期

中間事業報告書

(平成17年4月1日から
平成17年9月30日まで)



STEILAR C.K.M 株式会社

(旧社名 株式会社夢みつけ隊)

株主の皆様へ

株主の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社の第26期中間事業報告書をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。当社は設立以来、中高年男性の富裕層を主なターゲットに「付加価値訴求型通販」を展開してまいりました。また、近年あらたなターゲットとして女性顧客を拡大すべく事業の拡大を図っております。そのひとつとして、「宝飾：STEILAR」を中心としたブランド事業と女性顧客のための通販カタログの充実がございました。

このプロセスにおいて、当社に求められるのは「心の運営」に重きをおくことであると認識しております。当社は、心を込めて商品を一品、一品選定してまいります。また、企画ひとつ、コピーひとつ、お客様との会話ひとつ・・・それぞれにおいて「お客様との心と心のつながりを大切に」事業展開を推進してまいります。これによりお客様に「商品をとおして、愛と自由な自分自身の発見」をしていただけるのではないかと存じます。

今後も長期的、継続的な企業価値の拡大を図ってまいりますので、株主の皆様には相変わらずのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年12月

代表取締役 橋本 勝司

経営成績

当中間会計期間のわが国経済は、雇用・賃金の改善により、個人消費に明るさが見え始めたものの、最近の原油高や輸出の停滞で企業が先行きに慎重になっており、厳しい状況で推移してまいりました。

通信販売業界におきましては、インターネット通販、携帯通販や健康食品・化粧品等の特定のジャンルに特化した単品通販企業が引き続き堅調に伸びており、業界内の勢力図を徐々に変化させております。

このような状況の下、当社は以下のように活動いたしました。

カタログ部門

当中間会計期間において全社的に推進を図っている「ものづくり研究所」の企画を柱に新鮮な情報と蓄積したノウハウを集中させ独自性のある商品の開発を強化してまいりました。新たな取り組みとしては「暮らしの悩み解決」をコンセプトに新カタログ「ひとこと発見」を創刊しました。また、取り扱っている商品に関する消耗品をカタログに掲載して積極的に販売しました。さらに、雑貨の定期頒布もスタートさせ購入後のアフターサービスの充実を図りました。コストダウン・品質管理など継続している取り組みは専門部署を設立し、組織内の標準化にも努めてまいりました。

以上の結果、カタログ部門の売上高は1,763百万円（前年同期比12.6%増）となりました。

事業部門（頒布部門）

事業部門では、様々な商品ジャンルの継続購入顧客の拡大を目指しました。健康事業と化粧品事業において、リピート商品や消耗品の購入顧客に対して購入後の満足度に対するアフターサービスの向上を図ることで、再注文しやすい環境を整えました。さらに試用品の配布を積極的に行うことで、新規顧客獲得に努めました。また、趣味性やコレクション性の高い雑貨頒布商品に関しては、定期頒布コースの充実を図り、多様化する「男性の趣味」に対応することで業績の向上に努めました。

以上の結果、事業部門の売上高は713百万円（前年同期比13.3%増）となりました。

メディア部門

特定会員を保有している他社への広告出稿及び共同DMの発行を行い業績の拡大に努めました。また、新聞媒体等にも継続的に出稿し、新規顧客の拡大を進めました。商品原価と販促費のコストダウンにも取り組み利益の増大を図るとともに新規媒体の取り組みも進め下半期の足がかりとしております。

以上の結果、メディア部門の売上高は598百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

通信メディア部門

当中間会計期間においては、出店している外部のショッピングモール内のWebサイトに対して積極的に新商品の展開を増やし商品アイテム・ジャンルの充実を図ってまいりました。さらに「楽天市場」内にてオークションを開催し新規顧客の増加と限定品販売を推進してまいりました。また自社の商品販売サイトである「ゆめたいWeb」では、外部からの新規顧客のアクセス数を増やす企画を強化し、ポイントサービスの充実や頒布事業・ものづくり研究所などを取り入れることによってサイトの個性化を図り顧客のファン化を推進してまいりました。

以上の結果、通信メディア部門の売上高は149百万円（前年同期比75.5%増）となりました。

その他部門

宝飾・服飾の自社ブランドの店舗販売及び通販では、専用のWebサイトを使いながら新規顧客の集客の強化を図ることで、女性顧客の拡大戦略に努めました。

以上の結果、その他部門の売上高は、54百万円（前年同期比34.3%増）となりました。

以上の結果、当中間会計期間の業績は、売上高3,279百万円（前年同期比12.2%増）、経常利益51百万円（前年同期比64.1%減）、中間純利益37百万円（前年同期比67.0%減）となりました。

中間貸借対照表の要旨
(平成17年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	2,413,497	【流動負債】	1,748,370
現金及び預金	1,336,082	支払手形	297,919
売掛金	650,728	買掛金	506,671
たな卸資産	283,036	短期借入金	433,875
繰延税金資産	31,301	一年内償還社債	180,000
その他	138,430	未払金	207,278
貸倒引当金	26,081	未払法人税等	34,011
【固定資産】	1,927,871	ポイント割引引当金	33,808
有形固定資産	245,384	その他	54,806
建物	45,427	【固定負債】	1,324,628
土地	55,201	社債	570,000
その他	144,755	長期借入金	753,000
無形固定資産	5,703	その他	1,628
投資その他の資産	1,676,782	負債合計	3,072,999
投資有価証券	189,043	(資本の部)	
子会社株式	99,739	【資本金】	368,850
子会社長期貸付金	1,056,741	【資本剰余金】	362,086
繰延税金資産	7,224	資本準備金	362,086
その他	334,162	【利益剰余金】	695,152
貸倒引当金	10,129	利益準備金	15,653
		任意積立金	70,264
		特別償却準備金	264
		別途積立金	70,000
		中間未処分利益	609,234
		【株式等評価差額金】	11,424
		【自己株式】	169,143
		資本合計	1,268,370
資産合計	4,341,369	負債及び資本合計	4,341,369

中間損益計算書の要旨

(平成17年4月1日から
平成17年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目		金 額	
経 常 損 益 の 部	営業収益		3,279,711
	売上高		
	営業費用		
	売上原価	1,503,545	
	販売費及び一般管理費	1,730,978	3,234,523
	営業利益		45,187
損 益 の 部	営業外収益		
	受取利息及び配当金	9,722	
	受託手数料収入	10,100	
	為替差益	3,388	
	その他の営業外収益	2,681	25,892
	営業外費用		
	支払利息	10,632	
	社債発行費	5,000	
	その他の営業外費用	4,301	19,934
	経常利益		51,145
特 別 損 益 の 部	特別利益		
	損害賠償収入	15,776	15,776
	特別損失		
	投資有価証券評価損	163	
	ゴルフ会員権評価損	1,200	1,363
	税引前中間純利益		65,558
	法人税、住民税及び事業税		26,872
	法人税等調整額		727
	中間純利益		37,958
	前期繰越利益		571,276
	中間未処分利益		609,234

株 主 メ モ

決 算 期 日 毎年 3 月 31 日

定 時 株 主 総 会 毎年 6 月

利益配当金支払株主確定日 毎年 3 月 31 日

中間配当金支払株主確定日 毎年 9 月 30 日

名 義 書 換 代 理 人 三菱 U F J 信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目 10 番 11 号

三菱 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711 (通話料無料)

同 取 次 所 三菱 U F J 信託銀行株式会社 全国各支店

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

なお、当社は決算公告に代えて、貸借対照

表および損益計算書を当社のホームページ

(<http://www.yumetai.co.jp>) に掲載して

おります。